

以下、本文-----

がん細胞培養（CTOS 法）を用いたがんの診断・治療に関する研究

1. 研究の対象

- 2008 年 6 月以降に当院で大腸がん、肺がん、胃がん、乳がん、膀胱がん、前立腺がん、腎癌、乳がん、子宮がん、卵巣がんの手術を受けられた方
- 2011 年 4 月以降に大阪大学医学部附属病院で子宮がん、卵巣がんの手術を受けられた方
- 2015 年 10 月以降に京都府立医科大学で皮膚悪性腫瘍の手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

（目的）

CTOS 法は大阪国際がんセンターで開発されたがん細胞培養法です。CTOS 法によって患者さんのがん組織から純粋ながん細胞を調製することができます。また、CTOS は保存したり、培養で増殖させたり、実験動物に腫瘍を作らせたりすることができます。この培養法で得られたがん細胞といただいた血液を用いて、がんの診断・治療に関する研究を行うことがこの研究の目的です。本研究により、がんの仕組みについて理解が深まり、新しいがんの診断・治療法の開発につながる可能性があります。

（方法）

がん組織から CTOS 法を用いてがん細胞を分離します。分離したがん細胞を培養したり、実験動物に移植したりして、がんの仕組みを解析したり、診断・治療の助けになるかどうかを調べます。実験例としては、治療薬の CTOS に対する効果を試験管の中で評価したり、癌細胞の表面構造（糖鎖構造など）が正常細胞とどのように違うのかを解析したり、癌細胞を画像診断に応用できるかどうかを試験の中で調べたり、腫瘍の動物実験モデルとして CTOS をマウスに移植するための有効な方法を探したりします。CTOS 調製後、回収率、生存率、増殖率などからそれぞれの研究に適切であると判断される症例の CTOS を用います。がんに隣接する正常組織はがん細胞との比較解析に用います。また、CTOS 解析で見つかったがんの特徴的な物質が、血液で診断可能かどうか解析します。組織、分離したがん細胞、血液の一部は凍結して、本研究終了後も研究に使用可能な期間まで当センター内に保存され、将来、がん撲滅に有効な予防/診断/治療法の開発のために使用させていただきます。なお、研究の一環としてがん組織の遺伝子（がん遺伝子などがんに関連する遺伝子）を検査することがあります。本研究の研究期間は 2011 年 12 月から 2020 年 3 月 31 日です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療歴、血液検査データ、画像検査データ 等

試料：手術で摘出した組織、血液あるいは胸水・腹水などの体液 等

4. 外部への試料・情報の提供

共同研究機関へ、および共同研究機関からの試料の提供は、調整された CTOS もしくは実験動物に出来た移植腫瘍の断片として行います。また、必要に応じて年齢、性別や検査データ等の情報が提供される場合もあります。情報の提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は手術が行われた施設の研究責任者が保管・管理し、提供は行いません。

5. 研究組織

大阪大学大学院医学系研究科

医薬基盤・健康・栄養研究所

京都大学大学院医学研究科

野口研究所

京都大学再生医科学研究所

The University of Texas at Dallas

東京大学医科学研究所

金沢大学大学院医薬保健総合研究科

大阪大学蛋白質研究所

京都府立医科大学大学院医学系研究科

Vanderbilt University

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター 研究所

谷口 直之

住所：〒541-8567 大阪府中央区大手前3-1-69

TEL：06-6945-1181

研究責任者：

大阪国際がんセンター 研究所 所長 谷口直之

研究代表者：

大阪国際がんセンター 研究所 所長 谷口直之

-----以上